

老年看護学実習

1) 実習のねらい

老年期にある対象者を全人的に理解するとともに、日常生活を通して、個々の QOL に応じた看護ができるための能力を養う。

2) 実習目標

- ①実習施設の機能と役割を理解する。
- ②老年期の特徴をふまえた関わりを理解する。
- ③対象者を全人的に理解する。
- ④対象者の日常生活を支援する。
- ⑤ QOL を考えた援助について考察する。
- ⑥施設における老年看護の役割について考察する。

3) 実習単位と時期

実習科目名	単位数	時間数（日数）	時期	時間カウント
老年看護学実習	2	90 時間 (12 日間)	3 年次前期	臨地 8 時間 × 10 日間 = 80 時間 学内：実習前 2 コマ（4 時間） 実習後 3 コマ（6 時間）

4) 実習目標と到達目標

実習目標	到達目標	学習内容
1. 実習施設の機能と役割を理解する	①実習施設の概要を理解することができる ②施設サービスの内容について理解することができる ③施設の特徴を理解することができる	・地域環境 ・施設の構造 ・施設の沿革 ・安全対策と健康管理 ・ケアシステム ・高齢者対策における施設の位置づけ ・施設の日課 ・職員構成とその役割 ・居宅サービスの内容
2. 老年期の特徴をふまえた関わりを理解する	①老年期の身体的、精神心理的、社会・文化的側面の変化を理解することができる ②高齢者への基本的な接し方を理解することができる	・老年期の特徴 ・発達課題 ・加齢に伴う機能の変化 ・尊敬、受容、傾聴、共感の姿勢
3. 対象者を全人的に理解する	①対象者のこれまでの生活をふまえて、現在の生活に関する情報が収集できる ②日常生活動作を持てる力に着目しながら、対象のニーズをふまえた健康課題を抽出できる。	・ADL 評価尺度 ・HDS-R ・身体的因子、精神心理的因子、社会文化的因子 ・疾病や障害の状態 ・ADL レベル ・生活原理 ・ストレスコーピング ・自己概念 ・価値観 ・生活史 ・コミュニケーション ・アセスメント
4. 対象者の日常生活を支援する	①対象者の健康課題を対象の意思を尊重し、安全・安楽に配慮しながら実践できる ②対象者のもてる力を引き出す関わりができる。 ③対象者への実践を評価できる	・観察 ・移動・移乗 ・環境調整 ・食事介助 ・清潔援助 ・排泄介助 ・更衣介助 ・体位変換 ・生活原理 ・ストレスコーピング ・自己概念 ・価値観・ストレングスモデル ・コミュニケーション ・アセスメント
5. 高齢者のQOLを考えた援助について考察する	①対象者の日常生活自立に向けた支援とQOLとの関連性を考えることができる ②高齢者のQOLを維持・向上するための援助について考えることができる	・ニード論 ・コミュニケーション・リハビリテーション ・生活原理 ・ストレスコーピング ・自己概念 ・レクリエーション ・遊ブリテーション
6. 施設における老年看護の役割について考察する	①施設における看護の役割について述べるができる ②生活の場の変化に伴う看護の継続性について考えることができる ③高齢者との関わりを通して、個別性を尊重した看護について考えることができる	・他職種との連携、リーダー役割、調整役割 ・協働性 ・老年看護観 ・継続看護 ・生活原理 ・ストレスコーピング ・個別性 ・自己概念 ・老年看護

5) 事前学習・・・授業で学習した内容をふまえてまとめる

- 老年期の発達課題について（エリクソン、ハヴィガースト、ベックなど）
 - ・エリクソンに関しては自己のことばで説明できるように学習する。
- 老年期の特徴（身体的・精神心理的・社会文化的）
- 福祉関係法規（老人福祉法、高齢者の医療の確保に関する法律、介護保険法など）について
 - ・在宅、施設サービスの範囲と位置づけも理解しておくこと
- 認知症の主な症状と対応について

- ・中核症状と行動・心理症状（BPSD）と、その対応について調べておくこと。

(5) 高齢者の日常生活支援について

- ・高齢者の日常生活理解とその援助方法につながる資料・文献を整理してまとめる。

6) 具体的展開

(1) 介護老人保健施設、介護老人福祉施設で実習する。

- ・実習時間：施設によって変更あり
- ・実習場所：別紙参照

(2) レクリエーションを企画する。（グループ毎に企画書を提出する）

- ・最終打ちは実施日前日のカンファレンスを使用する
- ・カンファレンスでレクリエーションの振り返りを行う

(3) 受け持ち対象者に援助を実施する。

①実習初日に施設で学生が受け持つ対象者を決定する。

対象者の決定にあたっては、施設指導者から以下を参考に該当する方を紹介していただく

- ①排泄支援が必要な高齢者（尿失禁など）
 - ②食事支援が必要な高齢者（摂食・嚥下障害など）
 - ③生活行動に支援が必要な高齢者（身体機能障害、認知症、うつなど）
- ※意思の疎通が可能な方が望ましい

②日常生活支援等に関わりながら、対象理解する。

③健康課題を抽出し、個別的な援助方法を考え、実施する。

(4) カンファレンスを実施する。

- ・目的：実習目標についての学びを深める。
- ・方法：毎日の実習の中からテーマを決定し、カンファレンスを開く。（下記：推奨テーマ）
学生間で司会・書記などを決定し、運営していく。
- ・カンファレンスのテーマ（参照）

◆カンファレンス必須テーマ（必ず実施）

- ・援助計画発表（5日目）
- ・レクリエーションの振り返り（実施後）
- ・「施設における老年看護の役割」まとめ（10日目頃）
- ・実習のまとめ（11日目）

◆カンファレンス推奨テーマ（進度に合わせて実施）

- ・施設の特徴について ・安全な実践
- ・実施した援助の振り返り ・レクリエーション企画について

7) 実習展開

(1) 看護業務・居宅サービスなどを体験する。

(2) レクリエーションを1回実施する。

(3) 実習6日目頃から日課をふまえて自己で考えた個別性をふまえた援助を実践する。

(4) 実習中に「老年看護の役割」ラベルワーク用を記載し、コピーをとっておく。

(「施設における老年看護の役割」のカンファレンスに使用する。)

(5) 実習展開の進捗は、施設毎の実習スケジュールの状況によって変動することがある。

		実習内容	当日の課題
1日目	学内①	実習オリエンテーション (2コマ)	事前学習の追加・修正
2日目	臨地①	施設オリエンテーション 受け持ち対象への挨拶、情報収集 支援テーマの決定	老年1 老年2 (日々加筆していく) 老年3 老年6 (日々加筆していく)
3日目	臨地②	テーマとする生活援助 + 日課に沿った援助	老年1 老年3
4日目	臨地③	テーマとする生活援助 + 日課に沿った援助 グループでレクリエーション企画書作成	老年1 老年3 老年4
5日目	臨地④	テーマとする生活援助 + 日課に沿った援助 援助計画発表	老年1 老年3 老年4 修正
6日目	臨地⑤	日課に沿った援助 + 計画した援助の実践	老年1 老年4 修正
7日目	臨地⑥	日課に沿った援助 + 計画した援助の実践 レクリエーションの実施(7～8日目あたり)	老年1 老年4 修正
8日目	臨地⑦	日課に沿った援助 + 計画した援助の実践	老年1 老年4 修正
9日目	臨地⑧	日課に沿った援助 + 計画した援助の実践	老年1 老年4 修正 老年6 完成
10日目	臨地⑨	日課に沿った援助 + 計画した援助の実践 ラベルワーク「施設における老年看護の役割」	老年1 老年5
11日目	臨地⑩	日課に沿った援助 実習のまとめ	老年1 全体の記録の追加・修正
12日目	学内	全体総括 (3コマ)	記録を整理して施設へ提出

*レクリエーション企画書を4日目に作成し、指導者・教員に助言を受けて修正→7～8日目辺りに実施できるよう、企画の完成・物品準備を行う。

*老年6 (ラベルワーク用) についてはカンファレンスまでに書きためて、当日までにコピーしておく。

*カンファレンスのレジュメとしてコピーするもの・・・老年4 (援助計画発表)、老年5 (実習のまとめ)

8) 学内実習

時間	学内実習の目標	実習内容	資料
1日目 2コマ (4時間)	① 実習概要を理解する。 ② 高齢者への援助ができるよう、高齢者の特徴と援助の留意点を復習する。	・実習展開のオリエンテーション (居宅サービス・介護施設での看護業務、レクリエーションの実施、受け持ち対象への援助実践) ・施設毎のオリエンテーション	事前学習 レクリエーション企画書
12日目 3コマ (6時間)	① 実習の学びを振り返る。 ② 発表を通して、学びを共有する。 ③ 新たな知見・自己の課題を見出す。	LTD 過程プラン・カンファレンス 1.2時間目 資料の作成 3時間目 ディスカッション	LTD カンファレンス 用資料

※詳細はオリエンテーション資料を参照

9) 実習上の留意点

- ・高齢者に対して尊敬の念を持って接する
- ・服装：上はポロシャツ又は T シャツ 下は学校指定のジャージ 名札着用
- ・持参品：上靴
必要時着替え（半袖 T シャツ、半ズボン、下着、洗面用具）

10) 実習記録・その他の記録について

- ・事前学習は春期休暇を利用してまとめておく
- ・日々の実践記録は翌日朝に提出する
- ・「安全に関する体験報告書」は適宜記載して提出する

実習記録等の配布については以下のとおりである

実習記録	配布枚数	PC 使用の可否
①老年－1－日々の学び	10 枚	
②老年－2－生活史	1 枚	
③老年－3－対象理解情報用紙（①②③）	①～③各 1 枚	
④老年－4－援助計画	1 枚	可
⑤老年－5－実習のまとめ	1 枚	
⑥老年－6－老年看護の役割	1 枚	
⑦安全に関する体験報告書	1 枚	
⑧実習評価表	1 枚	
⑨臨地実習における体調管理	1 枚	
⑩レクリエーション企画書	グループに 2 枚	
⑪技術経験録		

11) 提出ファイル

- ・指定期日に提出するファイルには、
上記①～⑥の順、続いて事前学習、レクリエーション企画書（コピー分）を綴じる。
- ・安全に関する体験報告書は適宜教員に提出する。

12) 実習評価

- ・学生は 6 日目頃を目途に中間評価を行い、提出する。
- ・実習評価表は最終日に自己評価を行って、ファイルとともに提出する。
- ・他者評価は実習指導者と協議の上、教員が行う。

老年看護学実習評価表

学籍番号		学生氏名		実習施設				
実習期間	年 月 日 ～ 月 日			欠席時間数・理由	時間 分・理由			
評価項目					自己評価		他者評価	
					中間	最終		
1. 実習施設の機能と役割を理解する	①実習施設の概要を理解することができる							
	②施設サービスの内容について理解することができる							
	③施設の特徴を理解することができる							
2. 老年期の特徴をふまえた関わりを理解する	①老年期の身体的、精神心理的、社会・文化的側面の変化を理解することができる							
	②高齢者への基本的な接し方を理解することができる							
3. 対象者を全人的に理解する	①対象者のこれまでの生活をふまえて、現在の生活に関する情報が収集できる							
	②日常生活動作の持てる力に着目しながら、対象のニーズをふまえた健康課題を抽出できる。							
4. 対象者の日常生活を支援する	①対象者の健康課題を対象の意思を尊重し、安全・安楽に配慮しながら実践できる							
	②対象者のもてる力を引き出す関わりができる。							
	③対象者への実践を評価できる。							
5. 高齢者のQOLを考えた援助について考察する	①対象者の日常生活自立に向けた支援とQOLとの関連性を考えることができる							
	②高齢者のQOLを維持・向上するための援助について考えることができる							
6. 施設における老年看護の役割について考察する	①施設における看護の役割について述べるることができる							
	②生活の場の変化に伴う看護の継続性について考えることができる							
	③高齢者との関わりを通して、個別性を尊重した看護について考えることができる							
実習態度	①指定された期限内に記録することができる							
	②疑問点について質問したり、自己学習を行うことができる							
	③助言を受け止め、自己の意見も言うことができる							
	④グループ内で役割を果たし協調することができる							
	⑤時間を守ることができる							
	⑥身だしなみを整えることができる							
	⑦適切な言葉遣いができる							
	⑧家族・医療従事者との良好な人間関係の構築に向けて努力することができる							
	⑨個人情報保護を保護することができる							
	⑩事前学習ができる							
実習指導者			担当教員		総合評価			

評価基準 ◎=優れてできる ○=できる △=不十分さを残すができる ×=できない

対象の年代	社会背景(経済・社会情勢)	文化(流行した物・歌・娯楽など)	対象からの話	生活史を受けて、対象をどう捉えたか
幼少期				
青年期				
成人期				
壮年期・老年期				

老年1ー日々の学び

学籍番号 学生氏名

本日の目標 月 日()

タイムスケジュール		9	10	11	12	13	14	15	16
予定									
実施									

体験したこと・助言されたこと、その事象から考えたこと・学んだことを記載する。
(具体的事象を示すこと)

【コメント】

老年一3 対象理解情報用紙①

学籍番号

学生氏名

基本情報	
・年齢	・性別
・入所までの経過	(入所の期間)
・入所後の目標(ケアプランを参考にする)	
・継続されているところ(病院から引き継がれているところ、自宅での生活で引き継がれているところなど)	
・既往歴	
・アレルギ-の有無	なし あり()
・嗜好品	
・脱薬類(名称だけでなく、効能も記載する)	
・家族構成、家族との関係性	
【価値・信念】人生・生活で大切にしていること・人生における希望や目標	

老年一3 対象理解情報用紙②

学籍番号

学生氏名

基本情報					
①食事・栄養	②排泄	③コミュニケーション	④清潔・見だしなみ	⑤活動・休息	の視点からの情報
(対象理解情報用紙③)に示すところはそちらに記載でも可)					

着目した生活行動から、身体的・精神心理的・社会的・文化的な側面で情報収集する。

必要な支援【

】

情報収集	アセスメント

健康課題	対象の目標
援助内容	根拠

学籍番号	学生氏名
1. 対象者のQOLを維持・向上するためにどのような取り組みをしたか (☆どのような対象に ☆どんな目標をもって関わったか ☆どんな結果が得られたか) 2. 対象への支援や、実習全体を通して、「高齢者のQOLを維持・向上するための援助」とは？ 3. 施設における老年看護の役割をまとめる。	

学籍番号	学生氏名
施設における老年看護の役割は	施設における老年看護の役割は
その意味	その意味
施設における老年看護の役割は	施設における老年看護の役割は
その意味	その意味
施設における老年看護の役割は	施設における老年看護の役割は
その意味	その意味
施設における老年看護の役割は	施設における老年看護の役割は
その意味	その意味
施設における老年看護の役割は	施設における老年看護の役割は
その意味	その意味
施設における老年看護の役割は	施設における老年看護の役割は
その意味	その意味

※実習期間中に意味をしっかりと考えながら各自が記述し、コピーしておく。

